

3 弾蔵の常夜燈

本泉寺境内の南東にある石造常夜燈は享和3(1803)年に山口村の山田弾蔵という人が奉納したものと伝えられています。その昔、弾蔵が海上の多度権現の前で天狗と出会い、天狗と一緒に諸国を回った後、膏葉の作り方を教わり、3年後に戻ったとされています。この膏葉はたいへん効き目があったため、彼の膏葉はたちまち広まり、利益を得てこの常夜燈を奉納したといわれています。防火の神様である秋葉信仰の本尊三尺坊権現は天狗の姿をしており、山口八幡には秋葉社も祀られています。この常夜燈に刻された劔と法輪文の組み合わせも三尺坊権現を連想させます。弾蔵まつわる言い伝えもこうした山口の秋葉信仰と関係する伝説と思われる。



4 本泉寺

浄土真宗高田派のお寺で、創建は弘安6(1283)年のことと伝えられています。現在の境内地は、山田泰親の居城(上菱野城(山口城))があった場所であり、三方を山や尾根で囲まれ、南側に堀や土塁を配した痕跡がみられます。弘安4(1281)年に下野国高田専修寺の顕智上人の尾張での布教に感化された泰親が居城の南側に本泉寺を建てたとされています。境内北側には、承久3(1221)年の承久の乱で京方武士として戦った泰親の曾祖父山田重忠の顕彰碑があります。また、境内にある観音堂は、寛政12(1800)年より吉田町に所在したもので、明治期の廃仏希釈の折にこの地に移築されたものです。移築の際に多くの絵天井が奉納され、地域の俳人・歌人の歌が詠まれています。



Check 悲劇の武将山田重忠と山口

山田氏は、重宗系源氏の末裔で、平安時代末から鎌倉時代初めごろに尾張・美濃国で勢力を持った武士でした。重宗の曾孫重直の代より山田氏を名のり、尾張東部一帯の山田郡を拠点とした武家勢力となっています。後鳥羽上皇と鎌倉幕府が戦った承久の乱では、山田重忠は京方の有力武将として参戦し、重忠の指揮により幕府軍に苦戦を強いています。しかし京へと進行する幕府軍に追われ、重忠は京都西郊の嵯峨野般若寺山で最後を遂げます。山田氏は敗戦後その勢力が一旦衰えますが、重忠の曾孫の代にあたる山田泰親・親兄弟が、山口・菱野の地の地頭となり、山口地区の開発を進め、山口城や本泉寺が建てられたと考えられます。



5 武田信玄碑

由来は不明ですが、昭和の初め頃子どもの供養や虫封じのため矢形町の人が建てた石碑を現地に移したものとされています。市境にある物見山には武田信玄が尾張侵攻の際に物見を置いたとする伝承があり、今林にあった大津城は武田方の山田信濃守橋高に攻められたともいわれています。この地区が武田信玄とゆかりある場所として建てられたものと思われる。



6 宮地古墳群(市指定文化財)・吉田2号墳

吉田2号墳は団地造成工事に伴い昭和61(1986)年に発掘調査が行われ、現地で保存することが困難であったため、団地の西端のふれあいの森公園近くに移築復元されました。直径12mの円墳で、手前の羨道から一段下がっており、竪穴式石室の形状に類似する「竪穴系横口式石室」という構造です。こうした石室は西三河に多くみられ、太平洋沿岸部を経由して北部九州に系譜が求められる構造です。

宮地古墳群は2基の円墳(2・3号墳)と、1基の前方後円墳(1号墳)が瀬戸市指定文化財(史跡)となっています。2号墳と3号墳は、ともに直径12mほどの円墳で、墳丘の中央部には石室の石材が一部確認され、その形状からこの古墳も竪穴系横口式石室である可能性があります。横穴式石室採用前の古墳である可能性が高いため6世紀を中心とした時期の古墳であったと考えられます。



吉田2号墳

7 愛・パーク(瀬戸万博記念公園)

愛・地球博の瀬戸会場跡に整備されたメモリアルパークです。博覧会の成果である「市民参加」「交流」「自然との共生」を将来に伝えていきます。園内にある「天水皿」(てんすいざらえぬじょう)は日比野克彦氏によるデザインで、直径30mの大皿を模した世界各国のやきものを使用したモニュメントです。



8 広久手第30号窯跡(市指定文化財)

愛・地球博エントランスエリア整備に伴う発掘調査が行われ、窯体1基とそれに伴う灰原跡等が発見されています。調査後に窯体は現地保存され、あいち海上の森センター「窯の歴史館」内で展示されています。窯体は半地下式の窖窯で、天井及び煙道部は流失していましたが、焚口から燃焼室・焼成室まで比較的良好的に残存しています。窯体の規模は長さ4.2m、最大幅1.45mと比較的小さなものです。この窯跡で生産された製品の年代は、10世紀中期から後期にあたり、現在瀬戸市域で生産されたやきものの中で最も古く、瀬戸窯で最古の窯跡と位置づけられています。



9 あいち海上の森センター

平成17(2005)年に開催された愛・地球博の瀬戸愛知県館を改修した施設です。博覧会のテーマである「自然の叡智」のシンボルである「海上の森」を保全し、人と自然とのあり方を探求する学びと交流の拠点として整備されています。

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 月曜日、年末年始
入館料 無料

